

「令和5年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」
報告書の訂正について

教育政策課

1 正誤表

施策10 社会の変化に対応した多様な人財を育む教育の推進

頁	誤	正
32	2 科学技術教育の推進 (2) 参加体験型学習やコンクール等の取組 ア サイエンスコンクール等を開催～小中高から <u>17,615</u> 点応募	2 科学技術教育の推進 (2) 参加体験型学習やコンクール等の取組 ア サイエンスコンクール等を開催～小中高から <u>17,621</u> 点応募
33	◆関連指標の基準値・実績値・目標値 科学技術教育の推進 サイエンスコンクールの作品応募総数（小学校・中学校・高等学校） R4実績 <u>17,615</u>	◆関連指標の基準値・実績値・目標値 科学技術教育の推進 サイエンスコンクールの作品応募総数（小学校・中学校・高等学校） R4実績 <u>17,621</u>

2 訂正理由

応募総数を精査したところ、数値に誤りがあったため。

施策10 社会の変化に対応した多様な人財を育む教育の推進

- (1)グローバル化に対応した教育の推進 (2)科学技術教育の推進
(3)教育の情報化の推進 (4)環境教育の推進

I 主な取組状況

1 グローバル化に対応した教育の推進

- (1) 国際教育（国際理解教育）の推進
小・中・高校に勤務する外国語指導助手(ALT)を活用し、外国の文化や生活習慣等をテーマとした研修の開催
- (2) グローバル化に対応した人材の育成
WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業：大学・企業・国際機関等と連携した、質の高いカリキュラムの開発・実践
- (3) 海外留学・留学生受け入れの支援
留学生や「トビタテ！留学JAPAN」参加者が講師となり、海外への意識向上を図る「ワールドキャンプ in hinata（県立高校生40名参加）」を計画(コロナ禍のため中止)
- (4) 外国語教育の充実
生徒の発信力育成のための中高合同研修会及び小学校教員を対象とした指導力向上を目的とした外国語教育セミナーを実施

2 科学技術教育の推進

- (1) 関係機関と連携した科学技術教育の推進
ア スーパーサイエンスハイスクール～宮崎北高・宮崎西高・延岡高の3校
イ 宮崎サイエンスキャンプ～8月3～5日の2泊3日で宮崎大学で実施。中学校3年生から高校2年生まで、34名が参加。
ウ 科学不思議体験「実験・観察教室」～3地区（宮崎・南那珂・西臼杵）において、実験教室(3会場)、観察教室(2会場)で実施(計174名)。(他地区はコロナ禍のため中止)
- (2) 参加体験型学習やコンクール等の取組
ア サイエンスコンクール等を開催～小中高から17,621点応募
イ 科学の甲子園ジュニア県予選～県内中学校から15校34チーム102名参加
ウ 科学の甲子園県予選を開催…高校から8校19チーム114名参加

3 教育の情報化の推進

- (1) 情報活用能力の育成
ア ICT活用を推進するリーダー育成研修の実施（情報モラル教育を含む）
イ 1人1台端末環境下における情報モラル教育の実践的調査研究の実施
ウ MIYAZAKI 教育の情報化フェスタ開催。高校生情報モラル育成プログラム、情報モラル教育推進事業モデル地域の発表等を実施（参加者:約180名 オンデマンド含む）
- (2) 教科におけるICT活用の推進
ア ICT活用先進地域として西米良村を指定。県内8校（小学校4校、中学校4校）にICT活用推進教員を配置。県内10校が授業公開を実施し、全36授業に、約900名の教職員が参加
イ 1人1台端末導入モデル校（県立学校4校）を指定。県内の高校教員を対象とした授業公開ならびに研究協議会の実施
ウ 民間エンジニアを講師として招聘し、教科情報担当教員を対象としたオンライン研修ならびにプログラミング実習を実施
- (3) 校務の情報化の推進
ア 宮崎県統合型校務支援システムに、日向市、三股町、美郷町及び宮崎大学附属小中学校が新たに加わる。
イ 県立学校のICT教育推進リーダー等への研修会をオンラインで実施(8回)

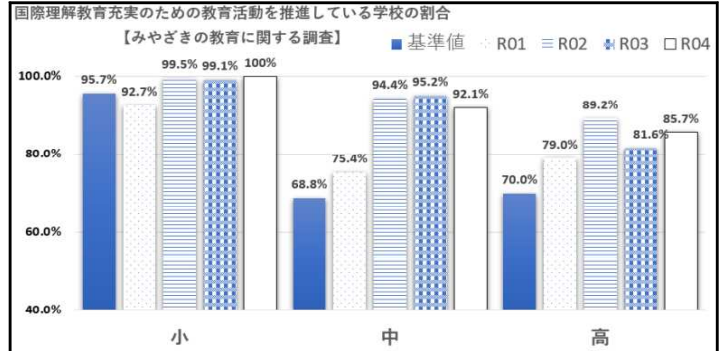
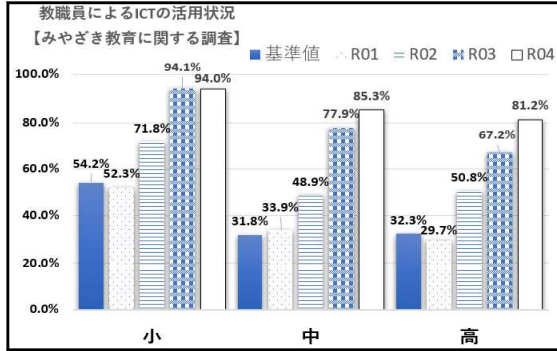
4 環境教育の推進

- (1) 地域や家庭との連携等による環境教育の推進
ア 4Rを中心とした環境教育を推進。環境教育推進校として、小学校4校、中学校4校、高校2校を指定
イ 児童生徒それぞれの発達段階に応じた環境教育の指導計画を策定し、各学校における環境教育を体系的に推進
- (2) 関係機関との連携による環境教育の推進
ア 関係機関と連携し、教員を対象にした研修の実施
イ 主体的・積極的に環境保全活動に取り組む態度の育成と環境教育の推進

◆推進指標の基準値・実績値・目標値

指 標	基準値 H27～H30 平均値	R 4 実績	R 4 目標
児童生徒がICT機器を授業や学習活動などで活用する場面を週に一度以上設定している教職員の割合 【みやぎきの教育に関する調査】	小54.2% 中31.8% 高32.3%	小94.0% 中85.3% 高81.2%	小60.0% 中40.0% 高40.0%
国際理解教育（国際教育）充実のための教育活動を推進している学校の割合 【みやぎきの教育に関する調査】	小95.7% 中68.8% 高70.0%	小100% 中92.1% 高85.7%	小96.0% 中75.0% 高75.0%

◆推進指標のデータ



◆関連指標の基準値・実績値・目標値

指標	基準値	R 4 実績	R 4 目標
科学技術教育の推進 サイエンスコンクールの作品応募総数（小学校・中学校・高等学校）【みやぎ科学技術人材育成推進委員会実施要綱】	26,628	17,621	27,000
教育の情報化の推進 ICT活用指導力に関する研修に参加した教員の割合 【学校における教育の情報化の実態等に関する調査/文部科学省】	36.8%	81.4%	65.0%
環境教育の推進 推進指定校 【高校教育課調べ】 【持続可能なみやぎづくりを実現する環境教育推進事業】	8校	10校	8校

II 分析と今後の方策

- グローバル化に対応した教育の推進については、令和4年度の実績値が小中高すべてにおいて高水準を維持している。これは、学校の内外に存在している国際教育についての幅広い経験や知識を有する人財や組織等といった国際教育資源を、授業をはじめとした学校の教育活動で活用している成果であると考えられる。今後は、外国語教育のさらなる充実や海外留学、国際交流の支援などをおし、これからの時代に必要となるグローバルな視点を持つ人財の育成の在り方についても検討していきたい。
- また、県内小学校1校、中学校2校において、バンラディッシュ、シンガポール・オーストラリアの小学校、中学校等と国際交流が実施された。現在、少しずつではあるが、海外の学校等と交流を行う学校も増えている状況である。小中高高等学校における国際交流も含め、引き続き、外国語指導助手、地域在住の外国人、県内大学の留学生等を活用しながら充実を図っていく。
- サイエンスコンクールの作品応募数については、目標値の達成には及ばず、昨年よりも減少した。各学校において、コロナ禍での夏期休業の課題等を工夫した結果、自由研究を行う児童生徒が減少したと考えられる。一方で、科学の甲子園ジュニアでは、全国4位という好成績を収めた。今後、科学技術人材育成事業において、推進委員会の中で十分協議を行い、各地区の取組を工夫していく。また、C4th等を活用して、科学の甲子園・科学の甲子園ジュニア県予選会への積極的な参加促進を行い、将来のイノベーター育成につなげていく。
- ICT活用先進校2校、推進モデル校8校を指定し、教科等の特質に応じた効果的なICT活用の推進を図った。指定校全てが授業公開を実施し、参加者は令和3年度よりも約300名多く、満足度も非常に高い結果を得られた。引き続き、効果的なICT活用の在り方を研究するとともに、学校間、自治体間の格差がなくなるよう取り組む。
- 環境教育推進校として、小学校4校、中学校4校、高等学校2校を指定し、4R活動を中心とした環境教育の推進を図った。今後は、県内14校を環境教育推進校に指定し、県全域での環境教育の推進を図り、循環型社会の担い手として主体的に行動できる児童生徒の育成を図りたい。